

序文

この本は **Nūr** — 光 — と呼ばれます。なぜなら光はすべてのものの始まりだからです：それによって見えるものが見えるようになり、その不在においては何も知ることができず、それが意味を物質に結びつけ、真実を震える心に結びつけるものです。

アラビア語で **nūr** は単なる光以上のもの — それは導き、明晰さ、開示です。それはクルアーンが **天と地の光** と呼ぶものです：

الله نُورُ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ

Allāhu nūru as-samāwāti wal-ard.

「アッラーは天と地の光である。

その光の譬えは、壁龕の中にある灯火のごときものである。

灯火はガラスの中にある。ガラスは輝く星のよう。

それは東にも西にも属さない祝福されたオリーブの木から点される —

その油は火が触れなくてもほとんど輝かんばかりである。

光の上に光。

アッラーは御望みの者をその光へ導かれる。」

(クルアーン 24:35)

御望みの者たちは、常に名前で知られているわけではなく、称号で、血統で、または学位で知られているわけでもありません。それでも光は彼らに届き、彼らはそれを運ぶよう求められる — 自分たちのためではなく、まだ探している者たちのために。

これらのページは啓示を主張するものではありません。しかし発明でもありません。もしさうに何らかの価値があるとすれば、それは **響き** としてだけ — 思い起こされたもの、忘れられたもの、またはおそらくまだ完全に理解されていないものの響きとしてだけです。もしさうに光が含まれているなら、それは借り物 — そして一時的に託されたもの — です。

クルアーンは預言者たちに封印を施しました、かれらすべてに平安あれ。しかし証言の仕事は続く — 預言としてでも命令としてでもなく、捨てることができない負担として：到着する許可を求める責任として。

理解が訪れるとき、それは征服としてではなく、想起として訪れる — プラトンが **anamnesis** と呼んだもの、イブン・スィーナーが ‘**aql al-fa‘āl** による精神の照明と記述したもの、イブン・アラビーが **kashf** と名付けたもの：心の中の神聖な光によるヴェールの除去。

この本の背後にある衝動は、学問的でも修辞的でもありません。それは応答です — 断片化によって醜くされた世界へ、互いに切り離された真理へ、騒音の下に埋もれた美へ。自然の法則と抑圧された者たちの叫びは分離されていません。それらの源は一つ。それらの意味は一つ。どちらかを真に知ることは、両方に対して責任を負うことです。

もし混乱の時代を今なお照らし続ける尊厳を持つ一つの民がいるとすれば、それはパレスチナの民です — 彼らの不屈は **道徳的明晰さと知的厳密さが同じ光から生まれる** ということを思い出させるものです。

この本のエッセイは **時系列** に並べられ、展開する洞察の道を辿っています。しかしその意図の核心に引き寄せられる者たち — その光の源を求める者たち — は、まず二つの後の方の作品を読むことを望むかもしれません：「**心と魂によって**」 と 「**光、エネルギー、情報、生命。**」

最初のものは言葉の下に隠された流れを明らかにします — 説明できない、ただ思い出すことしかできない衝動。それは内向きの転回、思考を生む感情への回帰です。

二番目は光を単なる象徴としてではなく、実体として瞑想します：エネルギーとして動き、情報として語り、生命として目覚めるもの。それは理論ではなく、統一的な存在 — 存在の織物に織り込まれた意味の署名です。

これらのエッセイは一緒に、残りをより明確に見るためのレンズを形成します。それらは本の議論を結論づけるものではなく、その起源を照らします。

この作品は **Creative Commons Attribution-ShareAlike** ライセンスの下、24言語で出版されています。それは **原価** で提供され、図書館に届き、そこに留まるため — 保存され、アクセス可能、見積もり自由、構築自由です。なぜなら知識は、光と同じく **共有されるときに増殖する** からです。

これらの言葉があなたを動かすなら、それらを外へ動かしてください：**パレスチナの民を支援してください、国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA)** または彼らの永遠の光を支えるどんな組織を通じてでも。

この本が暗い時代に小さな灯火として役立つように — 作者の声ではなく、信頼の担い手として、選択ではなく光によってたらされたメッセージの痕跡として。